

森専務理事殿

ご参考として 先週長崎で開催さ  
れました国連軍縮会議の資料を  
添付いたします。

なお 会議で 広島平和文化セン  
ターの大半田氏とお会いし、  
森専務によくお伝え下さい  
との伝言がありました。

4/19  
開発部

芳賀

国連軍縮長崎会議(1995年6月12日～16日)

6月12日(月)開会

ダビニッチ国連軍縮センター所長、村山首相(代読園田官房副長官)、高田長崎県知事、伊藤長崎市長より、今回の会議が被曝地長崎で開催される意義深さと核兵器廃絶に向けての前進を願った挨拶が行われた。村山首相の挨拶のなかでは、日本として軍縮促進のためにいくつかの提案が出され、参加者、特に海外参加者の関心を引いていた。

村山首相の主な提案:

○21世紀に向けた核軍縮のあり方について、関係国の議論を深めるため、来年(1996年)の適当な時期に日本において「核不拡散条約(NPT)延長後の核軍縮セミナー」を開催する。

(※外務省によると具体的なこと(時期、場所等)はなだ決定していないとのこと。)

○通常兵器の移転についての透明性を高めるため、「軍備登録制度」についての努力を惜しまない。

○過剰小火器(Small Arms)についての新たなイニシアティブとして国連事務総長の下に専門家の会合を開催し、問題解決への検討を行う。等。

6月13日、14日全体会議、15日作業部会

13日「過去の軍縮努力の回顧と将来展望」

「核軍縮努力と核兵器廃絶」

14日「新たなアプローチ」

15日「補完的な核軍縮努力」

核兵器5カ国は最終的に核兵器廃絶を目標としながらも、即時に核兵器廃絶することは環境が整わなければ難しいとし、参加者からは核兵器廃絶に向けて誠実